

当塾の教育理念について

■学生の皆様、保護者の皆様へ

フェイスの代表をつとめさせていただいている長谷川と申します。
当塾に興味を持っていただいて、ありがとうございます。

さて、20世紀は知識の時代と言われ、大学や大学院で専門知識を習得した知的労働者（ナレッジ・ワーカー）が社会的に優位な職業に従事していました。ところが21世紀に入り、コンピュータやインターネット、携帯電話などのIT（情報技術）が急速に発達し、知識の取得や事務・計算などの処理が無料で高速にできるようになり、さらには中国やインドなどの新興国が、反復性のある仕事やマニュアル化できる仕事を非常に安価にできるようになったため、すでにアメリカやヨーロッパでは、医者、弁護士、公認会計士という知的労働の中でも花形といわれる職業ですら、多くの仕事がITシステムや新興国へシフトし、資格を持っているからといっても必ずしも安泰な職業ではなくなってきました。

また、日本においても、20世紀までは有名な大企業に入社できれば生涯保証される時代がありましたが、いまでは有名企業、大企業に入社できたからといって、生涯を保証される時代ではなくなりました。私が大学卒業後に入社した大手企業も当時、社員が5万人でしたが、30年近くたった今は2万人に減少しています。

当塾は、大学受験を専門としている個別学習塾です。学習塾ですから学生の皆様の成績を向上し志望校合格という目標達成をサポートするのが当塾の役割です。でも、上述しましたように学業成績を上げ志望校に合格することを支援するだけでは、学生の皆様の良き人生に貢献できるわけではなくなったのが、この21世紀なのです。

このような21世紀において、学習塾という一つの教育機関のあるべき姿とは何かを考え、当塾の教育理念を

「幸せで豊かな人生を創造できる人間の育成」

としました。

当塾のこの教育理念と、その要素となる教育方針の「立志」「学ぶ力の育成」「たくましく善良な人格の形成」に関して、長くなりますが、以下にご説明させていただきます。

■教育理念 「幸せで豊かな人生を創造できる人間の育成」に関して

学習塾がこのような理念をかかげることに対して、私の知人の何人かは「学習塾は学業成績を上げ志望校に合格させるのが役割だから、理念よりも学業成績を上げることにのみ注力すべき」という意見でした。もちろん、学習塾にとって学業成績を上げ志望校への合格支援に注力することは一番大切なことだと考えています。

ただ、誰もが良き人生つまりは「幸せで豊かな人生」を望んでいると思います。幸せになりたくない人や（精神的に、物質的に）豊かになりたくない人は、私も50年近く生きておりますが、出会ったことがありません。誰もが望んでいるということは、「幸せで豊かな人生」は、きっとすべての人間に共通する「生きる目的」のようなものなのでしょう。そんな重要なことなのに私自身、どうしたら「幸せで豊かな人生」を実現できるのかを学生時代に学んでいません。といいますか、あまり幸せとか豊かさとかを真剣に考えるきっかけもなく学生時代を終えて、社会に出てしまったという感覚です。

今の学生の皆様はどうなのでしょう？

でも、大学や大学院を卒業し社会に出たあとは、「幸せ」や「豊かさ」のことを真剣に考えざるをえない事、ざぱり言うと、「幸せ」や「豊かさ」を邪魔（じゃま）する問題や障害が常に発生します。学生時代はご両親に守られ育てられているために、あまり大きな問題や障害を経験される方は少ないと思いますが、社会に出たあとは、ご両親のように無償で守ってくれる人はなかなかいません。自分で自分の人生を守り、問題や障害を自分で乗り越え、「幸せ」や「豊かさ」を自己実現していかななくてはなりません。そして、それは遠い先のことでなくて、早い人であれば5年、遅くても10年以内にやってきます。

私も、社会に出てから30年ちかく経ちましたが、その間に「幸せ」で「豊か」になるためにはどうしたらいいのかを真剣に考えざるをえない問題や障害がたくさんありました。問題や障害の渦中にあるあいだは、不安と恐怖で押しつぶされそうになったこともあります。そんなとき、周りの人たちからの助言や、幸せで豊かな人生を実現した方々の伝記や人生哲学の書籍に何度も助けられて、今があります。

そんな経験から、人生の「幸福度」と「豊かさ」には、以下の方程式が成り立つのではないかと思います。

$$\text{人生の幸福度と豊かさ} = \text{志（理想、熱意）} \times \text{能力（知識、教養、学習能力）} \times \text{人格（人間性）}$$

$$(\text{志} : 0 \sim 100 \quad \text{能力} : 0 \sim 100 \quad \text{人格} : -100 \sim 100)$$

「幸福度」と「豊かさ」の度合いは、志（理想、熱意）と能力（知識、教養、学習能力）と人格（人間性）のかけ算で決定される。つまり「志」と「能力」と「人格」のすべてが高ければ、その人の「幸せ」や「豊かさ」は非常に大きなものになりますし、一つの項が低ければ、その他の項をいくら高めても、あまり成果は出ないというものです。能力が高くても志という理想や熱意が低ければ「豊かさ」（成果）はそれなりのものになりますし、能力が人並みでも、非常に高い（強い）志があれば、「豊かさ」（成果）の度合いは高くなります。より「幸せ」で「豊か」になるためには、できる限り、志（理想、熱意）や能力（知識、教養、学習能力）を高くすることが大切ですが、一番重要なのは、人格（人間性）です。人格（人間性）に関しては、プラス方向だ

けではなく、悪い人格というマイナス方向もあります。人格がマイナスだと、志や能力がいくら高くても、その人の「幸福度」や「豊かさ」（とくに精神的なもの）はマイナスになります。たとえば、よくニュースや新聞で報道されている不祥事や罪をおかした大企業の幹部や政治家・官僚をみれば明らかです。この人たちは志も能力も非常に高い人たちです。でも、悪い人格（人間性）というマイナス面が不祥事や罪をおかし、多くの人に大きなマイナスの影響を与え、本人の「幸福度」や「豊かさ」も結果的に大きなマイナスになっています。「志」とか「能力」が高ければ高いほど、「人格」の優劣は自他の「幸せ」と「豊かさ」に大きく影響します。

現在、通常の学校や塾、予備校では、上述した方程式の中の「能力」項（それも学業成績という一部分）に重きが置かれています。もちろん学業成績という「能力」は高ければ高いほど、「幸せ」や「豊かさ」を向上させる可能性が高くなりますが、上述の方程式のとおり「能力」だけでは、その人の「幸せ」や「豊かさ」の実現のためには不十分だと、私自身の人生や周りの人たちの人生をみての実感です。実際、上述した大企業の幹部や政治家・官僚の例以外にも、世の中には、高い能力を持ちながらも、人生に起こる問題や障害に押しつぶされて「幸せ」や「豊かさ」を感じるできない人が非常にたくさんいます。

上述しましたとおり20世紀には、高度な知識を必要とする知的労働という職業があり、それを目指せば、ある程度の「幸せで豊かな人生」を実現しやすい時代がありましたが、21世紀は「幸せで豊かな人生」を確実に保証する職業などなく、自分自身で「幸せで豊かな人生」を創造しなくてはいけない時代になったと言えるでしょう。その意味で、学習塾が単に学業成績の向上や志望校合格の支援の役割だけではなく、人間の「幸せ」や「豊かさ」の実現に少しでも協力できる教育機関になるという理念なしには、この21世紀に活躍される学生の皆様をお預かりする資格はないと考えています。

■教育方針 「立志」に関して

「少年よ、大志を抱け」

札幌農学校（現在の北海道大学）のクラーク博士の有名な言葉ですが、この言葉の全文は、

「少年よ大志を抱け、それは、金銭のためでなく、自分だけの栄達（出世）のためでなく、人が名声と呼ぶ、あのむなしいものに対してではなく、人が人として、当然、身につけるべきものに対して、大志を抱け。」

（原文：Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.）

というものです。

「志」というと、大きな事業を成功させたり、有名になったり、高い地位につき権力を持つことだと考えている方もいらっしゃると思いますが、実は「志」とは、このクラーク博士の言葉どおり、人間が人間として当然身につけるべきものに対して高い理想と熱意を持つことなのです。そして、その「人間が人間として当然身につけるもの」とは、「高尚な人格」であり、「社会に役立つ能力」のことです。その志（理想）を追い求めた結果、事業に成功したり、著名になったり、高い地位につくことは、非常に喜ばしいことです。でも、それはあ

くまで結果であって、人生の目標や目的ではありません。

また、最初から高尚な人格や社会に役立つ能力を持っている人間などいませんし簡単にそれらを身に付けることはできません。だからこそ、そうなるという熱い「志」(理想)が必要なのです。簡単に獲得できないからこそ大きな価値があり、一生をかけて追い求めるべきものといえるでしょう。

しかし、この「志」を抱いたとしても、なかなか思いどおりにはいきません。「志」は水に溶ける塩のようなもので、ちょっとした誘惑やささいな問題で、自分の甘えという水に溶けてなくなります。

日本や世界には、この溶けてなくなりやすい「志」を強く持ち続け、何回も大きな苦難を乗り越えて偉大な功績を残された人たちが歴史上たくさんいらっしゃいます。そのような人たちを偉人と呼びます。でも、偉人と呼ばれている人たちも、その伝記や詩、日記を読むかぎり決して最初から特別な才能があったわけでもなく、私たちと同じ喜怒哀楽のある生身(なまみ)の人間でした。

幕末、坂本龍馬たちとともに明治維新を成功させた西郷隆盛も偶感(ぐうかん)という詩に、

「幾(いく)たびか辛酸(しんさん)を歴(へ)て、志(こころざし)、始(はじ)めて堅(かた)し」という一節を冒頭に書き、心境をうたっています。

「たくさんの苦難を乗り越えて、初めて志が固まり、不屈の精神がやしなわれる」という意味です。事実、西郷隆盛は藩主と意見が合わず、二回も島流しにされたこともあります。幕末で一番の偉人といわれる西郷隆盛ですら、苦難を受け苦しみ悩みながら、それを乗り越えて「志」をかため偉業を達成できたのです。このように偉人といわれる人でも試練に会い苦しみ悩む、私たちと同じ生身の人間でした。ですから私たちも同じように、どんな状況であっても志を強く持って生きていけるはずです。

私たちがこの西郷隆盛のように偉業を達成できるかどうかわかりませんが、また、偉業を達成することだけが人生の目的でもありません。でも、最低限、誰もが自分の人生を幸せで豊かなものにしたいと願っているはずです。そのためには、まず、自分のめざす人格はどのようなものかということと、自分が何をして社会に役立つかということについて、高い理想を持つことが必要なのです。それを「立志」(りっし：志を立てること)といいます。

- ・どんな人間になりたいか？
- ・どんな人生をおくりたいか？
- ・どんなことをして他や社会に貢献したいか？

これらの設問に、具体的でなくてもかまわないですから、大学に入学する頃までには答えを見つけて欲しいのです。探せば必ず見つかります。途中で変更しても構いません。また、答えを探す行為自体にも意味があります。

どんな人間になりたいか、どんな人生をおくりたいかという設問には、先にあげた西郷隆盛のような偉人の伝記や偉人たちが残した人生哲学が参考になると思います。また、当塾でも、日々の学習の合間に、偉人の生き

方や人生哲学について、学生の皆様にお話ししたいと思います。

また、めざす仕事については、まわりの大人の方たちに聞いたり、新聞や本、インターネットで仕事についての情報を検索したりして参考にされるとよいでしょう。私や講師達も、職業についての情報提供や相談など、学生の皆様の立志のためにご協力させていただきます。

■教育方針 「学ぶ力の形成」に関して

現在、日本は学歴社会といわれています。もちろん、学歴で人を判断することはできませんが、学歴は、その人の職業の選択の幅を広げます。2, 30年前までは、学歴が高ければ実社会で非常に優れたポジションで活躍出来ましたし、いまだに学歴を偏重する人もたくさんいますが、私は「21世紀においては、学歴だけでは、その人の幸せや豊かな人生は保証できない。」と考えています。それは上述したとおりです。でも、だからといって勉強しなくてよいわけではありません。少しでも上位の大学をめざし、日々、勉強することは学生時代にとって大きな意味があります。

人類の歴史は、創造・進化・発展の歴史です。この創造・進化・発展の歴史は、これから先も形をかえながら続いていくでしょう。学生の皆様は数年後には社会に出られるわけですが、その社会は様々な職業で成り立っています。どんな職業であろうと、この創造・進化・発展という歴史の流れを受け、常に高度化していきます。それに適応して自己の能力も常に向上させなくては、社会に役立つ仕事ができず、もちろん「豊か」になれません。

たとえば、医者という職業でも、難関大学に入学し、大学で医療を学び、国家試験に合格して医者の資格を取ったあとも（それだけでも大変なことですが）、日々、進化する医療技術や新しく開発された薬、病気に関する最新の研究成果などを常に学ぶ必要があります。医者という資格におごって学ぶことをしなくなったら、いずれは患者に対して適切な処置ができなくなり、患者から信頼を失い、来院する患者が減り、結果的に「豊か」にはなれません。また、スポーツ選手という職業も同様に、学生時代にインターハイなどで上位の成績を収めたからといって、プロになったあと、適切なトレーニング方法やゲームの戦術論、スポーツ心理学など、体の鍛錬とともに、進化するスポーツのさまざまな理論を日々学び実践しなくては良い成績を継続して残すことはできませんし、現役を引退したあと、現役時代の学びの差がその人の「豊かさ」に影響します。

また、学びは、上述のような専門的なことだけではありません。どんな職業であっても人間の関係抜きは考えられません。つまり、人間関係を良好にするための学問いわゆる「人間学」が、さまざまな仕事で必要になります。最近の医学でも、患者に対する「共感力」を向上させることが、治癒率（病気が治る確率）を高めることにつながる事が分かっており、広島大学の医学部でも「共感力」を高めるための授業が数年前から始まりましたし、一般の企業でも、社員間、お客様、取引先など、さまざまな人間関係があり、その関係の善し悪しが仕事の成果を左右します。

人間関係を良好にするための学問「人間学」は、単に職業のためだけではなく、家族、友人などの個人的な関係にも非常に重要です。さらには、人は、「人間」というものを学び「自己」を理解することが大切です。

現在、多くの人は、自分に不安を感じ、また人間関係に悩みを持っています。でも残念ながら自己を理解し人

人間関係を良好するための学問「人間学」を、現在、学校で学ぶことはほとんどありませんし、決まった教科書もありません。でも、歴史から、その時代に生きた人間の生きざまを学んだり、幸せに豊かに生きた偉人の伝記や人生哲学、そして心理学や脳機能科学などを学ぶことにより、人間とはどういうものかを理解することができます。

そして、「人間学」は、自分の人生の実践から学ぶことが重要です。人生のさまざまな経験値が高くなれば、先にあげた歴史や伝記、人生哲学、心理学などの理解もより深まり、自己や他者に対する理解も深まってきます。この繰り返しを続けることが「幸せ」と「豊かさ」につながっていきます。

自己を理解し、人間関係を良好にし、仕事で人から信頼され、その結果、幸せで豊かな人生を創り上げていくために、一生、職業に応じた専門的な学問や「人間学」のような人間的教養を学ぶ必要があり、そのような深く専門的な学習のためには、学生時代に必ず、幅広く基礎的な学問を習得し、より良く学ぶ力（学習能力）を育成する必要があるのです。社会に出てからでは仕事や生活に追われ、基礎的な学問の習得や学習能力を育成する時間など、ほとんどありません。

そして、基礎的な学問の習得や、学ぶ力（学習能力）は、学習することによってのみ成果・向上があります。残念ながらそのほかの方法はありません。その意味でも、志望校合格というハードルをクリアするために、日々学習を重ねることは非常に大切なことです。

当塾においては、全般的な教科の学習をサポートしますが、特に苦手な教科に関して、その苦手な原因を探り、原因に合わせた弱点克服の指導を行うことにより、苦手な教科であっても学習のやり方次第で簡単に強化できるという自信を持ってもらいます。その自信こそが「学ぶ力」の原点です。

また、成績は学習に費やす時間に対して、階段状（横から見た階段の形のように）に伸びていきます。必ずしも費やした時間に対して直線状に伸びていくわけではありません。すべての人が必ず伸び悩む期間を経験します（これを高原現象（プラトー現象）といいます）。その伸び悩む期間にどれだけ我慢して学習を続けることができるかが成績向上の秘訣です。当塾では、その伸び悩む期間に、講師がコーチとして塾生の成績向上のステップまであきらめずに努力できるよう励まし誘導します。一度、階段を一段上にのぼることができれば、自信はより高まり、成績向上の一つのサイクルを経験したことになります。あとは、どれだけ繰り返しそのサイクルを経験できるかが成績を決めます。この成績向上のサイクルは、人間のすべての能力の向上サイクルと同じです。そのサイクルを体で覚えることが、生涯学習に必要な「学ぶ力」を形成することになります。

■教育方針 「たくましく善良な人格」の形成に関して

ことわざに、「禍福（かふく）は、あざなえる縄（なわ）のごとし」という言葉があります。「幸福と不幸はいりくんだ縄のようで、どこまでが幸福で、どこまでが不幸かわからない」という意味です。

このことわざのとおり、幸せか不幸かを決めるのは、その人の外面的な状況ではなく、実はその人の「心」だと思ふのです。

どんなに経済的に物質的に豊かでも、心に安らぎがなく幸せを感じていない人がいる一方で、どんな厳しい状況におかれても、希望をもって前向きに考え行動し、小さなことにも感謝でき、他人に思いやりをもって生き、そして、幸せを感じている人もいます。それは、その人の「心のちから」が、その人の「幸せ」を決めているからだと思います。

ただ、残念ですが、この「心のちから」はそう簡単に向上するわけではありません。長い人生の中で、悪い状況や良い状況を繰り返し経験しながら、コツコツと努力して育成するしかありません。それを「修養」と呼び、その「修養」により、「心のちから」を高め「たくましく善良な人格」を持つことが、良き人生を歩めるかどうかを決めます。

長い人生のあいだには必ず、どうしたらよいか分からなくなるようなことが、悪い状況や良い状況として繰り返し起こります。

人格がマイナスの人（あまり心が鍛えられていない人）は、

- ・悪い状況になると、卑屈（ひくつ）になり、その原因を他人や環境の責任にして人間関係を悪くするとともに、正しいやり方で人生を切り開くことをあきらめてしまいます。
- ・良い状況になると、それは自分の努力や能力のおかげだと傲慢（ごうまん）になり、欲張りになってしまつて人間関係を悪くし、やがて、まわりからの協力も得られなくなり、良い状況が長続きしません。

人格がプラスの人（心が鍛えられている人）は、

- ・悪い状況のときでも、卑屈にならずに自分の能力や努力の不足を反省し、前向きに努力して状況を好転させます。
- ・良い状況のときでも、傲慢にならず、良い状況はいろいろな人の協力のおかげだと感謝することができ、いままで以上にまわりから協力されて、もっと良い状況に持っていきます。

最初から、心が強く高い人格を持った人は誰ひとりとしていません。人生で起こる様々な状況を心を鍛えるチャンスだととらえ、それに真正面に立ち向かい乗り越えるたびに、高尚な人格が形成され、その結果、幸せで豊かになっていくのです。

学生時代の学習の苦労も、心を鍛え高尚な人格を形成するためのひとつの試練です。また、高尚な人格とはどのようなものかを、上述した偉人の伝記や人生哲学から学ぶことも大切です。当塾でも、学習をとおして、学生の皆様の人格形成のヒントをお伝えしていきたいと思ひます。

■最後に

当塾は、学力向上（学業成績向上）の支援が重要な役割ですが、一番の目的は、当塾の教育理念にある「**幸せで豊かな人生を創造できる人間の育成**」にあります。

人生という長い期間についてのことから、当塾で学ぶことで、すぐに結果がでるものではないと思います。ただ、学生の皆様の志望校合格という目標達成のための学習を支援する中で、学ぶ力の育成をはかるとともに、将来の職業のことやそれに関連する様々なこと、さらには人生に関することを、社会の先輩として知りえる情報をお伝えし、学生の皆様の幸せで豊かな人生の創造に、すこしでも役立てていただければとの強い思いから、このような教育理念をかかげました。

そして、私自身に、さらには、塾長、講師たちにも、「立志」、「学ぶ力」、「たくましく善良な人格」を、常に要求し、その育成に努めることを、ここに皆様にお約束いたします。

最後に、

「幸せで豊かな人生を創造できる人間」

これは、私自身が、常に心がけている姿でもあります。

では、学生の皆様、ともに頑張りましょう！！

個別指導塾フェイス
代表 長谷川 徹